



# 神奈川支部報

神奈川支部報 第3号  
発行日：2016年10月1日  
発行者：込田伸夫  
発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部  
横浜市青葉区若葉台 2-58 込田方

## 《特別寄稿 I》

### 山岳会を創った“ハマの岳人たち” (1)

小島烏水 (こじま うすい)

1873～1948  
砂田定夫



日本の近代登山黎明期に、日本山岳会設立の中心となり、日本アルプスのパイオニア的登山を実践し、生涯数多くの山岳文学を著して登山の啓蒙を続けた小島烏水(本名・久太)はその人生において、大きなインパクトとなる

出会いが3つあった。ひとつは志賀重昂の『日本風景論』を読んだことだった。著者の志賀は登山家ではなかったが、本の中に「登山の気風を興作すべし」と題した一文があり、烏水や木暮理太郎など登山の先駆者となる青年たちを刺激した。2つ目は烏水と同じ横浜戸部在住の岡野金次郎と出会ったことであり、2人の交友が1902年の槍ヶ岳登頂という、日本人による近代登山の幕明けに相応しい快挙を果たし、以後烏水が日本アルプスの登山を行う方向性を確立したこと。3つ目はW・ウェストンとの出会いである。「近代登山の父」ともいわれるウェストンは、早くから日本アルプスをはじめ日本の山に足跡を残していた。ウェストンとの交流を深め、その強い勧めで日本山岳会設立への牽引役になったのである。烏水と岡野、ウェストンとの出会いがなければ、日本山岳会の設立がかなり遅れたことは間違いない。

烏水にとっての“心のふるさと”は横浜だった。生誕地は高松であるが、満2歳のとき一家は上京し、その後父が横浜税関へ就職したため横浜の西戸部へ移住し、1930年に阿佐谷に移

住するまでの56年間(うち12年間は米国赴任)を過ごした。この間、戸部小学校、転校して老松小学校、のち横浜商業学校(Y校)に学び、横浜正金銀行(東京銀行の前身)に就職、銀行マンとしての生業を得る。若い時から雑誌『文庫』に投稿したりして文筆活動を続け、のちに記者となって、「鎗ヶ嶽探険記」を連載した。烏水は幼少時から虚弱体質で、武士だった父による撃剣(剣術)の稽古にもついていけなかったという。しかし坂道の多い横浜界隈での通学や通勤で鍛えられ、近所に岡野という頑健な仲間を得て日常的に山玉台や伊勢佐木町、旧東海道の宿場跡など歩き回り、湘南の大楠山や円海山などの丘陵から丹沢の塔ノ岳へ登ったりして、登山家としての健脚が身についた。米国からの帰朝後は阿佐谷に移住し、再就職、日本山岳会初代会長就任などを経たのち、悠々自適の晩年を過ごした。烏水が富士山の愛好家であったことも忘れてはならないだろう。長男の隼太郎は「父の愛した山は結局富士に始まり、富士に終わった」と書いている。68歳ごろから健康に翳りが出て病気がちになり、1948年12月、74歳で逝去した。

## 《特別寄稿 II》

### 『晴れのち晴れ！』

#### 北アルプスミニ縦走記録』

##### 大槻利行

7月、8月と神奈川支部山行がお休みと聞いた。うーん、夏山に登りたいなああと地図を広げる。そうだ、今年から8月11日は祝日「山の日」だ。その記念祝賀会が開かれる上高地周辺の山に登り、「山の日」をお祝いしよう。そんなことでこの登山は始まった。

8月8日(月)

0時ジャスト、最寄り駅に車で出向いて下さった山岳会のYさんと合流。「寝てっいいよ」

とお声がけいただくが入山アプローチの不安か高揚か、おしゃべりをして高速を走った。

上高地に5時半ごろ到着。早速、運動靴から登山靴に履き替え、翌日の午後、徳本峠での合流をYさんと約束し、ひとり6時に出発。多少雲があるものの晴れ、梓川左岸の路を徳沢に向かって進む。気張っていたのかいつもタラタラと1時間かけて歩く明神まで45分間で到着、人のだれもない明神、なかなか経験できません。更に徳沢までも45分間で歩き7時35分着、テントを撤収したり朝食づくりとキャンパーが爽やかだ。皆さん、これから一日の始まりまーす感が、たっぶり。私はとてばただ眠い・・・けどそりゃそうだ、完(全)徹(夜)なんだから。ここから蝶が岳まで長堀尾根を4時間30分のコースタイムかあ、行けるかなあ。

7時45分、徳沢園の右奥から登山道に入る。

ここから蝶が岳山頂までのタイムを手帳のつた記載はヒドイので、敢えてそのまま記す。

#### 手帳記録

1本(大木の根本)8時33分着。ねむい。トイレに行きたい、困った。8時38分発。

1本(湿地先の丸太で)9時13分着。高度2025m。下山の4人連れに丸太を「ベンチだよ」と勧められそのまま座り込む。ねむい、アクビ。9時20分発。

1本、10時2分着。高度2235m。ここまで登りの年輩男女一組を抜いた。(依然ねむく、ふきげん)。

[ここで大阪からの単独下山者と40分話す。「無理しちゃいかん」とか「革製登山靴はやっぱいい」とか、その方が背負う懐かしい「DAX社」のザックの話で盛り精神적으로和んだ。「この靴とザックであちこち行ったなあ」の言葉に同感。有難うございます。]

10時40分発。

1本(陽の当たる左側広場で)11時11分着。昼食として行動食をとる。11時25分発。

長堀山11時51分通過。高度2510m。この手前より穂高がよく見える。

手帳記録ここまで

フラフラ、睡眠不足はだめだ。少し前にヒマラヤニストが苦しさに吠えながら雪面を登行

する映像を観ていた。きっと空気の薄い辛い場面だと思う。それに影響されたのか、場面とレベルも違うが周囲に人がいないのを良いこと



に苦しき紛れに「ウアー」とひとり吠え、そのバテ顔をカメラで自撮りした。弱い自分も記録しておこうと・・・

12時43分、蝶が岳山頂着。同時にガスが出てくる。蝶が岳ヒュッテでテント手続きを済ませトイレを借り、2~3人用テントを建てると少し落ち着く。ビールを求めて再び蝶が岳ヒュッテへ。な、なんとジョッキビアの表示。缶ビールを想定していたのだがこれはジョッキしかない。800円也。ロビーの液晶テレビで高校野球中継を見ながら全身の細胞に沁みてゆくビアを感じる、こんなに美味しいビア何年振りだろうか。北アルプスの稜線も凄い時代になった。(後程これを話した山岳会員に「北アの山小屋では普通だよ」と言われもってショック)

8月9日(火)

5時5分日の出。実は明け方と言うより夜半0時30分頃から吹きすさぶ「風」で目は覚めていた。シュラフカバーと薄手羽毛服にしたのも寒くて失敗だった。テントが飛びそうな風(フライの紐がちぎれた)だったが、日の出のころから落ち着いてきた。数多くテントのトップスタートで5時10分発。大滝山への路はお花畑。おじさん一人、花を愛でロマンチックな気持ちで歩く。睡眠をとるとやっぱり違う、昨日と違って爽やかだ。

大滝山北峰まで1K地点で一本、5時58分。鳥のさえずり、沢の音のみ。長袖を脱ぎ鉢巻きで汗を止める。振り返ると蝶が岳。6時5分発。

6時36分大滝山北峰通過、同南峰に6時48分着。展望は安曇野側のみだが天気は上々、昨

日に続き「晴れのち晴れ」だ。6時58分発。

ここからの下りは安曇野側のトラバース路だが傾斜がありちょっとだけ危険地帯。

森の路を熊の気配を意識しながらとぼとぼ歩く。70リットルのザックは3.5ℓの水と700ccの焼酎が多少減ってもまだまだ重い。

木製ヤグラのある大滝槍見台に9時5分着、前穂北尾根が正面だ。上り下りはないものの樹林帯の路が単調で「アキター」と心が叫ぶころ、11時15分徳本峠に到着。6月第一週末の「ウェストン祭の峠越え」以来2カ月ぶりで「ただいまー」の気持ちになる。徳本峠小屋でビールを買ってこれまたキンキンに冷えている。冷蔵庫に入っているのね、参りました。

テントを設営しひとり宴会をしていると14時30分、Yさんが明神から上がってきた。

8月10日(水)

この日はテントを設営したまま、5時発で霞沢岳ピストン。素晴らしい天候の下、展望を思いのままに出来た。「晴れのち晴れのち晴れ」である。ここからの記録はYさんの作られた上高地山岳研究所のホームページ「さんけんブログ」に写真入りで掲載されているためコースタイムのみを記す。

(「さんけんブログ」はJAC山岳研究所運営委員会のホームページよりリンクあり)



一本(ジャンクションピーク)5時56分着、6時5分発。

一本、6時51分着、同58分発。

一本、8時7分着、同8時10分発。

一本(K1、2567m)8時37分着、同50分発。

霞沢山頂、9時28分着、同50分発。

徳本峠、13時18分着、14時8分発。

明神、15時34分着。

強風でテントの紐が切れたり、単独なのに70ℓのザックがパンパンだったり、ブユで右腕がはれたり、なによりバテたり・反省点もあったが「心の山行」になった。また暑い暑い街の生活に戻り普段の日々、今回の山旅をふと想い出して幸せを感じている。

山を登って、泊まって、下って、ミニ縦走万歳！と叫んで記録といたします。

支部の皆さん、山を歩きましょう！

## われら神奈川支部

### 支部会員リレー紹介

100名を超える方の参加をもって神奈川支部は発足しました。支部会員の中には、以前より山の世界で活躍してきた方から最近初めた方まで様々な方がおられます。支部会員の中には以前から知り合いの方もおり、そのネットワークを基にリレー式に投稿いただくコーナーを作りました。

### 丹沢を楽しむ

#### 永井泰樹

今から25年ぐらい前になりますが、山の写真を撮りたい、そう思い始め、カメラを背負って通い始めたのが地元の丹沢でした。その当時の被写体は、富士山や丹沢の山々、紅葉、新緑などでした。特に朝夕の富士山は、冬季における絶好の被写体でした。

やがて、丹沢の山々の風景を撮影するにあたり、普段見られない場所からのアングルで撮影してみたいという衝動に駆られ、例えば、三角沢ノ頭(寿岳)から眺めた塔ノ岳などの撮影に挑戦し始めました。それが結果的にバリエーションルートと呼ばれるヤブ尾根筋などを歩くことにつながりました。

ですが、単に山の風景を撮影するだけでしたら、丹沢通いは、そのうち終了していただいでしょう。その後、被写体は、花(シロヤシオやミツマタの他、シロヨメナ、ヤマボウシ、ヤマザクラ等、キリがありません)や、樹木(ブナ、モミ、スギの巨木等)、あるいは、滝へと拡張していきます。

また、撮影だけが目的ではない登山、例えば、沢登り、送電線を辿って送電鉄塔を次々と探訪

する山歩き、鉱山跡見物、石仏巡り、林道・廃道巡り、夜間登山、あるいは、単に鍋焼きうどんを食べるための山行というのも丹沢で経験しました。

以上、振り返ってみますと、丹沢との付き合いは、山の風景撮影から始まり、そこから丹沢の自然物、人工物への関心が深まった結果、いろいろなテーマを掲げることで、通い続けることができました。これからも一層、丹沢を楽しむ山行を体験していきたいと思っています。

## 蜂毒によるアナフィラキシーショック

堀井昌子

本年8月初旬、会員男性が山中でクロスズメバチに襲われて刺されアナフィラキシーショックで亡くなりました。厚生労働省の調査によると日本では蜂刺されによるアナフィラキシーショックで年間20人ほどの人が亡くなっています。このアナフィラキシーという言葉はギリシャ語アナ（反抗して）とフィラキシー（防御）の合成で、蜂毒や食物、薬物などのアレルゲンが体に入ってから極めて短時間のうちに皮膚、粘膜、呼吸器、循環器など複数の臓器にアレルギー症状が出る反応で、その結果生命を脅かす危険な状態になることをアナフィラキシーショックと言います。そしてこれらアレルゲンにより心停止に至る時間は薬物が5分、蜂毒15分、食物30分というデータもあり、蜂に刺されて反応が強かった場合、つまり蜂毒にアレルギーがある人は次に刺されるまでの期間が短いほど2回目の刺傷でアナフィラキシーショックをおこしやすいとされています。8~10月の山では黒を避け白っぽい服を着る、芳香のある化粧品を避ける、見張り役のハチを見かけたら速やかにその場所を離れるなど蜂に刺されない対策が必要です。そして携帯アドレナリン自己注射キット「エピペン」を持ち歩くことです。アナフィラキシー補助治療剤であるエピペンは欧米では市販されていますが、日本ではようやく2011年9月に保険適用となり、厚労省と輸入製薬会社の約束でエピペンについて講習を受けた医師のみが処方医として登録されることとなりました。エピペンの価格は保険の種類により異なりますが診療費、処方料などを

加えて2000~5000円程度、有効期限は最長1年3-6か月です。

<http://www.epipen.jp/>

<http://www.jstm.gr.jp/summary>

## 役員会報告

日時 8月18日19時~21時

場所 神奈川工科大学横浜事務所

報告事項

- ・支部会員異動の報告。入会者が2名
- ・支部報(No.2)の発行
- ・山行委員会・YOUTH委員会の報告  
個人山行の取り扱いについて意見交換
- ・東京多摩支部から奥多摩BCの宿泊体験ツアー(7/2・3)の案内あり

審議事項

- ・山行計画書の標準フォーマットについて
- ・7月以降の支部山行
- ・YOUTH委員会の活動について提案
- ・山行計画・報告書式および連絡フォロー
- ・支部報No.3の内容
  - ・「親子で楽しむ山歩き」の原稿作成への協力について

## 山行委員会報告

日時 9月15日19時~20時30分

場所 神奈川工科大学横浜事務所

検討事項

- ・「親子で楽しむ山歩き」の原稿作成について、具体的な取り組み方法について
- ・南関東ブロック3支部合同懇親会について
- ・静岡支部との懇親山行について
- ・山行に関する規則等の原案について
- ・一般支部会員からの山行企画の提案

### ※「準支部山行」の実施について

公式な支部山行とは別に、支部会員の企画による準支部山行を実施していくことにいたしました。

準支部山行は支部会員の立案による山行計画で、山行委員会の承認を得て実施します。実施に当たっては、当面支部役員の1名の参加を義務付けました。

準支部山行の実施予定は支部報、メール等で適宜ご案内していきますので、支部山行と同様の手順で申し込みください。

## 今後の予定

### 準支部山行 矢倉岳

(「親子登山」原稿作成取材山行)

「親子で楽しむ山歩き」の原稿作成のため、踏査山行を実施します。支部会員の方の同行参加も歓迎いたします。希望される方は支部山行同様の方法で申し込みください。

各コースとも先着8名とします。

日時：10月15日(土)

場所：矢倉岳

申し込み先：田島剛

tt525ihiline@softbank.ne.jp

090-9688-3958 (携帯電話)

コース：新松田駅＝矢倉沢－本村－矢倉岳  
－山伏峠－地藏堂＝新松田

概略：標高は870mと低いですが、頂上からの展望は360度と抜群。北西に富士山、北には丹沢山塊、南は箱根の山々、南東には相模湾が広がり、遠く江の島や大島も見えます。

歩程約5時間。

集合：9時 新松田駅

担当：田島剛

### 準支部山行 湯河原南郷山・城山

(「親子登山」原稿作成取材山行)

日時：10月22日(土)

場所：湯河原南郷山、城山(2班に分かれて実施します)

申し込み先：長島泰博(両コースとも)

y-naga.0128.k59@kxe.biglobe.ne.jp

090-5554-8345

申込み当たってどちらの山に登るか伝えること。

#### ① 南郷山コース

コース：幕山公園－幕山－自鑑水－南郷山－鍛冶屋－湯河原駅

概略：明るいカヤトの山頂から光る海を眺めるコース。

歩程約4時間。

集合：9時50分 湯河原駅改札

担当：長島泰博

#### ② 城山コース

コース：幕山公園－シトドノ岩窟－椿台－城山－湯河原駅

概略：戦いに敗れた頼朝が隠れた岩窟からトンネルを抜けると一気に伊豆の海が広がります。歩程約3時間。

集合：9時50分、湯河原駅改札

担当：森

下山後、両コース希望者により合同で懇親会を実施します。

### 南関東ブロック三支部合同懇親山行

(募集締め切りました)

南関東の埼玉、東京多摩、神奈川の三支部合同の懇親山行、

東京多摩支部の企画による御岳での講演会と大岳山登山を行います。

日時：10月29日(土)～30日(日)

場所：奥多摩御岳

宿泊：御岳山御師集落「山楽荘」

行程：29日13:30「山楽荘」集合

14:00開始

30日7:30登山開始

大岳山往復

12:30下山完了

参加費：10,000円

### 静岡支部との懇親山行

(募集締切、施設に空きがあれば追加申し込み可)

神奈川支部ではこの度、隣接する静岡支部との交流山行を実施することになりました。

金時山の麓に泊まり、秋の箱根の山を歩いて、懇親を深めましょう。

日時：11月19日(土)～20日(日)

場所：箱根仙石原周辺

宿泊先：神奈川大学箱根保養所

(金時山登山口のすぐ近く)

参加費：8,000円程度(宿泊費および夕・朝食、飲料代等の実費)

山行：金時山など。後日詳細決定。

担当：寺井 motokotera@gmail.com

### 支部山行申し込み方法

支部山行申し込みにあたっては、以下の情報を担当者にお伝えください。申し込み締切日が指定されていない場合は、原則2日前まで。

参加者氏名、フリガナ、性別、会員番号

E-Mail、住所、電話番号(及びFAXあれば)、携帯番号、生年月日、山岳保険加入有無、登山

中の緊急連絡先氏名、都道府県、住所、続柄、電話番号。

今後、申し込み用テンプレート（エクセル）作成の予定です。

### 役員会/山行・YOUTH 委員会予定

#### 10 月役員会

10 月 20 日（木）19 時～

#### 11 月山行・YOUTH 委員会

11 月 17 日（木）19 時～

#### 12 月役員会

12 月 15 日（木）19 時～

場所はすべて神奈川工科大学横浜事務所  
（横浜駅東口ウィスポーツビル 10F）

※日産横浜ビル、カモシカスポーツの入っているビルです。

山行・YOUTH 委員会はどなたでも参加可能です。以下に連絡の上、参加してください。

山行・YOUTH 委員会：井村 090-5822-9539

imurahide@yahoo.co.jp

### 神奈川支部の次年度以降の事業について意見募集します

3 月に神奈川支部が発足してから半年、試行錯誤しながら支部の運営を行ってきました。支部会員の希望がどこにあるのか十分把握できず、また各人の登山に対する技量も把握しにくい状況で、具体的な山行等の企画・実施が容易ではなかったというのも事実です。

神奈川支部の基本的精神は自立した登山者の会ということで、ツアー登山の仲間でも、一方通行の登山教室でもありません。海外の山を目指す方もいて、一方ポピュラーな百名山を目指す方いても良いと思います。ベテランも初心者も、ご自分の志向に合った登山スタイルや仲間を神奈川支部の中で見つけ、それぞれ得意分野を活かして互いに貢献することでクラブライフを充実させていくことが、支部に参加する意義ではないでしょうか。

さて、今年も残すところ 3 か月になり、来年の事業計画を立てる時期になりました。そろそろ支部としての中長期的な目標を持ちたいとか、神奈川支部ならではのプログラムを検討しようとか、いろいろな意見が出ています。支部会員の皆様には、今後神奈川支部で具体的に何をやりたいかという視点でご意見をいただきたいと思います。役員会で意見を取りまとめて事業計画に反映し、支部内で共有するとともに本部にも提出したいと考えています。

お寄せいただきたい意見は

1. 行きたい山や山行のイメージ、そのための技術や費用等の課題。
2. 山行以外で神奈川支部として取り組みたい事項（イベント等）。
3. その他支部に期待すること、貢献できること等。

11 月 16 日までに神奈川支部代表アドレス kng@jac.or.jp あるいは郵送にて込田支部長へお送りいただくか、11 月 17 日の山行委員会に持参していただいてもかまいません。

皆様からのご意見をお待ちしています。

## あとがき

連続して襲来する台風や秋雨前線の影響で、予定していた山行が中止や変更となった方も多いのではないかと思います。そんな中、大槻さんの特別寄稿「晴れのち晴れ」はうらやましい限り。

本部からの依頼で「親子で楽しむ山歩き」の原稿作成の取材山行を始めました。知っている山でも子供が歩くという視点でコースを眺めてみると、思いのほか新鮮な発見があり、楽しく歩くことができます。数回ですが、準支部山行として参加者を募集します。都合がつけば参加してみてください。（泰）

編集者：植木貞一郎、多田友行、長島泰博

平成 28 年 10 月 1 日

今回は 1 月の下旬に発行予定